

島嶼産業研究会

会 報

第 7 号 2018 年 2 月 19 日 (月)

【発行】島嶼産業研究会 事務局
〒890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20
鹿児島大学水産学部内
k9650024@fish.kagoshima-u.ac.jp
TEL 099-286-4291
FAX 099-286-4297
<http://international-islands.jimdo.com/>

ごあいさつ

寒さの厳しい日々が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。2月17日(土)、鹿児島大学COCセンター、西之表市、種子島漁協との共催で開催した勉強会も無事に終わりました。研究者からの最新の知見の紹介だけでなく、民間企業からの技術紹介、漁業者や行政からのたくさんの質問があり、大変有意義な時間となりました。島嶼産業研究会では、今後も定期的に島嶼部での勉強会を企画・開催する予定です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

島嶼産業研究会 事務局

1. 第 6 回・勉強会、開催報告

2018年2月17日、西之表市民会館において、鹿児島大学COCセンター、西之表市、種子島漁協、島嶼産業研究会の共催で「水産シンポジウム：次世代の種子島の水産業を考える」(第6回勉強会)を開催しました。

はじめに、鹿児島大学水産学部の教員4名より、事例発表が行われました。山本様より、種子島周辺のトコブシ資源にかかる生態について、江幡様よりカゴ漁具の試験操業や底曳網による海底調査の結果について、木村様より魚の鮮度を保つ具体的な技術について、鳥居より冷凍保蔵技術を用いた流通改善の成果と課題について紹介がありました。漁業者や行政関係者から非常に多くの質問があり、新しい技術を取り入れながら経営改善を目指したいという意気込みが伝わってくる瞬間でもありました。

その後、民間企業14社から、魚礁や漁具などにかかる最新技術・知見の紹介がありました。これまた数多くの質問が漁業者や行政担当者からあり、新たな技術に対する興味関心の高さを伺い知ることが出来ました。

勉強会後は懇親会が開催され、情報交換にぴったりの時間となりました。他地区の取り組み事例を聞いた漁業者からは、自分たちでも取り組み可能ではないか?との感想もありました。今回の勉強会を機に、漁業振興に向けた取り組みが活発化するとともに、民間企業や大学の技術や知見が現場の発展に寄与できたらと思っております。

木村郁夫教授の講演



2. 会員の動向

現在の会員数は42名です。内訳は、民間企業14名、大学21名（鹿児島大学14名、北海道大学、東京海洋大学、三重大学、京都大学、広島国際大学、広島商船、長崎大学それぞれ1名）、行政5名、国際機関1名となっております。種子島での勉強会を機に、多くの方々にご入会頂きました。

3. 会誌「国際島嶼産業研究」原稿の募集について（再掲）

島嶼産業研究会では年1回、会誌「国際島嶼産業研究」を発行いたします。論文から活動報告まで多様なジャンルを用意しております。1年の活動の記録を残しませんか。

島嶼産業研究会は近い将来、学術研究団体への登録を目指しております。登録されれば、遡って、いわゆる業績としてカウントされます。投稿規定、執筆要領につきましてはホームページに詳述しておりますので、ご一読ください。

萌芽期の会誌ではありますが、皆様の積極的な投稿をお待ちしております。